

|| 直言 ||

明るく、楽しく、潔く一運動としての自己改革を

2018年を迎えたが、農協をめぐる環境は依然として慌ただしい。政府がすすめる「農協改革」の期限が2019年5月ということで、政府の「担い手アンケート」、JAグループの「組合員アンケート」という2つのゴールを目指して、集中的な取り組みが進められているところだ。とはいえ、ゴール目指す取り組みを少し冷静な目で見ておくことも大事だろう。

まず考えてみたいのは、担い手アンケートと組合員アンケートの目標についてである。アンケートでは、組合員から「良い評価」をいただくことが目標になっている。いわば入学試験のようなもので、いい点数を取って、うまくクリアできれば未来が開けるが、クリアできなければ暗くて厳しい日々が待っている。その意味では、大事な関門である。

それでは、いったい合格点は何点なのだろうか。残念ながら合格点は示されていない。仮に「担い手アンケート」で6割の評価を得たとする。それは合格なのか不合格なのか。おそらく、規制改革推進会議や政府は、「そんな点ではまだまだ不十分」「不合格」と言いそうだ。というより、これまでの経緯を見れば、おそらく何点を取っても、彼らは合格点とみなさないだろう。合格基準がはっきりしないのは、JAグループの組合員アンケートも同じである。JAグループとしては、胸を張れる数字が出ても、攻撃する側は何とでも難癖がつけられる性格のものだ。もちろん、だからこそ、できるだけいい点を取ることが必要なのだろうが、得点への評価は、そのときの彼我の「力関係」によることを、肝に銘じておくべきだろう。

もう一つは、運動の目標設定と進め方についてだ。アンケート得点のみを目標にするのは、運動体としてはいかにも実りが少ない。なぜなら、上記のように役に立つか立たないかわからない数値を得るために、膨大な手間とお金をかけることになるからだ。

組合員アンケートに手間とお金をかけるからには、JAとしてしっかりと運動の獲得目標を設定すべきである。それを一言でいえば、JAの「組織強化」である。それは遠くなってしまったJAと組合員との距離を近づけ、組合員とJAの信頼関係を取り戻し、さらなるJAの発展につながる新たな結びつきを図ることである。また、それを通じて、JAの役職員の意識を改革し、組合員志向を徹底させることである。

それでは、具体的にどう取り組むか。残された期間は少ない。その間に、全力で「組合員対話運動」、「組合員訪問運動」を推進してはどうか。対話の基本は、組合員の声を「聴く」

滋賀県立大学環境科学部教授

増田 佳昭

(本センター理事)



ことである。組合員が求めているのは、JAから自己改革の説明を聞くことではない。自分たちの声をJAに聴いてもらいたいのである。改革の「説明」はそれからでもいい。組合員も、自分の話に真剣に耳を傾けてくれないのなら、相手の話を聴こうという気にもならないだろう。運動としての数値目標は、組合員との対話実績である。組合員アンケートについては、訪問活動や対話活動の中で、回答してもらってはどうか。署名方式を採れば、成果はより明確である。

もちろん、聴きっぱなしではだめだ。聴いた声に、何らかの方法で必ず答えることが重要だ。組合員の声を取りまとめ、これへの回答を目に見える形で組合員に返す。手間はかかるが、そうした手間の延長に組合員との信頼関係が構築されるのではないか。そして、今すぐやれること、中長期的にやれることについては、その具体化を図るべきである。こうしたプロセスこそが、JAの自己改革ではないだろうか。

すでに全戸訪問を行っているJAも少なくない。それに「自己改革」の看板を掲げること、そして単なる広報誌配付の訪問でなく、実質的な対話のできる訪問を進めることだ。できることなら、非常勤理事や支店運営委員、総代などの組合員と訪問するのもいいだろう。また、組合員組織との対話集会も「自己改革」の看板を掲げて実施してほしい。組合員から出された様々な意見は、「自己改革推進ニュース」などにまとめて、目に見える形で組合員と役職員が共有してはどうか。

この間の、自己改革の取り組みで不十分なことは、「運動」としての取り組みができていないことだ。役職員ともに、やらされ感満載である。それもそのはずだ。農協改革自体が政府からの「やらされ改革」だからだ。だが、禍を転じて福となす。ピンチをチャンスに。この機会を絶好機とみて、組合員との関係再構築、協同組合としての強み発揮に取り組んではどうか。

運動に必要なのは、わかりやすいスローガン（キャッチコピー）、目に見えるシンボルだ。JAの本所・支所には、「自己改革運動推進中」の垂れ幕や横断幕を掲げる、JAの自動車にもステッカーをつける、JAの役職員は同じく「運動推進中」のバッジやリボンをつける、そうやって目に見える運動に取り組んではどうだろうか。

「明るく」「楽しく」「潔く」。自己改革は運動として取り組むべきである。